

議会改革フォーラム 2018 を開催

町民に信頼される開かれた議会を目指し、町内各層のまちづくりに対する考えを伺い、町民と議会の町政全般にわたる意見交換の場とするため、「議会改革フォーラム 2018」を開催しました。



10月27日、札内コミュニティプラザを会場に開催した「議会改革フォーラム2018」には、町民の皆さんや管内市町村議会議員の皆さんなど、町内外から約80人の方にご来場いただきました。

基調講演に先立って、議会や選挙を身近に知っていただくことを目的に、町議会と町選挙管理委員会が協力し、幕別高校と江陵高校を対象に実施した「高校生(出前)講座」の取組について、高校生からのアンケートで寄せられた「議会のしくみや選挙について知ることができた」、「来年はしっかりと投票したい」、「毎年開催してほしい」といった声や取組内容などについて、藤谷議会運営委員会委員長が報告しました。

第1部の基調講演では、山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授の江藤俊昭氏を講師に、「主権者教育の重要性と町村議会の役割」と題して講演いただきました。江藤教授は、「住民自治の根幹は議会」であることをもう一度確認し、住民を巻き込んで一緒に議論することが、主権者教育と連動する。住民から出された意見を議会として受け止め、調査して提言し、ときには条例提案や、町から提案された予算を修正することも議会の役割などと話されました。



江藤教授
(山梨学院大学)

第2部のパネルディスカッションでは、「私たちが考えるまちづくりについて」をテーマとして、江藤教授の進行により、岩谷史人氏(町社会教育委員会委員長)、仙石祥氏(町商工会青年部部長)、小笠原美奈子氏(小笠原農園 農家のお店 ひより店主)、米山一敏氏(東日本大震災の話を書く会代表)、林順子氏(幕別真幸協会 居宅介護支援事業所 札内寮介護サービスセンター管理者)の5名のパネリストに登壇いただき、それぞれの立場でのまちづくりに対する思い、町議会に期待することなどについて発言いただきました。

パネリストの皆さんからは、①高校が新設され、高校生が地域課題や町のことを真剣に考え、この町で生きていくことについて考えてくれることを期待する。②農と食とスポーツ、子育て、観光を結び付けて町を盛り上げたい。③行政と公区と住民の情報発信・収集マニュアルを早急に作るべきで、

災害時のボランティア受入れ体制の整備も必要。④幕別町は、介護保険以外の福祉サービスも充実している。認知症カフェ、地域サロンができ、住民参加で明るいまちづくりを期待している。⑤町民一人ひとりが、町議20人の顔を見て名前が言えるくらい、身近な存在となることを期待したいなどの意見がありました。

江藤教授は、議会にはすごい権限がある。議会の魅力を若い人たちに知らせる役割も主権者教育として重要で、誇りを持って対応されることを期待したい。議会報告会や議会改革フォーラムは、やり方を考えながら継続してやり続けることが、地域住民にとって大事なことと締めくくられました。



議会改革フォーラム 2018 の会場
(札内コミュニティプラザ)